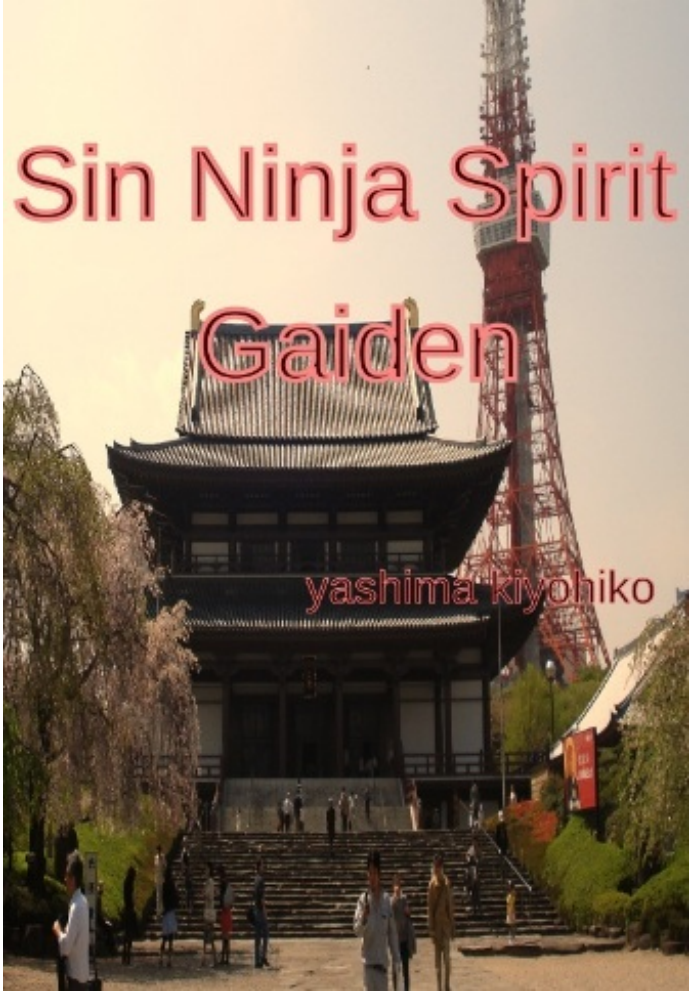

Sin Ninja Spirit Gaiden

yashima kiyohiko

物の怪が終焉のとき

幕末の頃に世界に劣れることなく近代化して行った大和の天皇は軍隊の時代がきたために武士と忍者の必要性がなくなり刀狩り制度を実施した。それに歯向かった忍者たちは兵隊と紛争を起こして、ただ一人の勇斗だけ
が家宝である斬神刀と守って戦火の伊賀の里を脱出した。そして錦城に居座る徳川慶喜を尋ねた勇斗は烏天狗となって何処かに向かって行った慶喜を追うまでに雨河童と鬼夜叉などの邪神に出会って行った。阿修羅島と
言う険しい悪霊島へ向かって行った烏天狗と雨河童と鬼夜叉の三冠王は人間になるために捕えていた孝明天皇
と一体三位となって時空転送の門を潜って未来へ旅だった。未来を乗っ取られると思った忍者の勇斗とその父
の泰三と妹の愛美はそれが許せなくなって阻止するために何とか時空転送の書と外郎薬の銀玉を見つけ出して未来へ行くことができて、陰謀を阻止して三冠王を奈落の底に葬り去った。しかし大仙陵古墳の陵墓に雨河童
が悪霊を封印して一緒に入れて置いた埋蔵金を掠め取った烏天狗が陵墓の石壇を乗せた蓋を開いたために悪霊たちが大阪難波の街までにやってきて彷徨う悪霊とアスファルトの路面から現れて出てきた骸骨の鎧武者たちは一つに集まって巨大化したがしゃがしゃ髑髏を勇斗は般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀で脳天に突き刺し倒したが、幾つもの一魂の黒いカルマとなって何処かに散らばって行ったのであった。勇斗は大阪府立天王寺高校の闘病生活をしている教師に入れ替わって状況変換の術を使って成り済まし２年B組クラスを受け持ち教師をしていた。黒いカルマは物の怪となって人々を襲い始めて、事件が起きる度に孤高の勇斗は戦いに出向いた。２０１３年７月２１日夏の頃に終業式が終わった後の２年B組クラスではお盆前に控えいる夏の合宿について生徒に話していたヨレヨレスーツ姿の黒縁眼鏡を掛けた勇斗である相生先生は何を話すのにも「そんなの時代遅れだよ」と生徒にからかわれていた。一方では地獄を彷徨い続けている烏天狗と雨河童と鬼夜叉の三冠王は
あの世にある奈落の底からこの世にいる三冠王の僕の九尾狐に対して左から烏天狗に雨河童に鬼夜叉の三面がある阿修羅像が闇から現れて雨河童の顔は「我ら阿修羅像を現せてマドゥー教をこの社会に信仰を促すのだ」
と囁かれた狐もどきの人獣となった九尾狐は東京タワーが近くに見える増上寺を支配して自ら体外離脱の術を
使って九尾狐から離れて行って人間となって鞍馬亮として生きることにした。狐目で青い目の亮は人間になれても妖術が使えるので油断はできなかったが、九尾狐は当分の間にして檻の中で眠ることになった。亮は大仏
の隣にお経を唱えて三冠王の三面六臂である阿修羅像マドゥーを現した。蜂蜜の意味を持つ
マドゥーは三冠王
が蜂蜜を好んだことが由来なだけに蜂蜜を仏殿に備えた。亮はマドゥー教の信仰を広めるために

全国各地を巡って行って、その度に茶髪で目が青く鼻が高く色白の亮は西洋人に見られてキリスト教の勧誘と間違われて
「昔　江戸時代の祖先がそうでした」と言い返しては三冠王をこの世に人間として生き返らせるには六道輪廻である餓鬼道から畜生道に修羅道に人間道に天道に導かなければならなかった。特に烏天狗のような輪廻から外れた者は大聖霊界の閻魔大王には外道となされて地獄を彷徨い続ける三冠王はマドゥー教を信仰して人々によって崇められることで何時しか甦るのであった。
マドゥー教の教祖となった亮は悪霊から身を護り病気貧困
などに打ち勝てると嘘をついて勧誘して行ったが、少しだけ崇めた人々がたまたま悪いことが改善されたために不思議な力があると信じて尊崇されるようになって行った。夕方１８時頃にマンション部屋で冴えない生活
をしている勇斗はいつものロイヤルミルクティーを飲みながら、テレビのニュースを見ていた。烏田崇議員は
３ヶ月前から失踪して行方不明になっていることについてテロに誘拐されたか赤い鞘を持った忍者に暗殺されたと聞いた勇斗は烏田崇議員の豪邸を家宅捜索しているの見て疑われている自分に震撼していた。やっとことで気を取り直した勇斗は明日の合宿に備えて眠り着いて朝を迎えた。共学の進学校である天王寺高校から吹田にある万博公園へバスで向かって行った勇斗と生徒は無事に辿り着いた。晴天青空で澄んだ空気の自然文化園
で昼はいい日和の中でバーベキューを食べた。その後でアルファベット文字を五つ見つけて行くオリエンテーションがあった生徒は順番づつそれぞれで歩いて行った。生徒に離れて歩いて行った勇斗は太陽の塔を抜けて
行ったところで小人族のコロボックルが五人現れて「あんたら早い内に　ここからでて行ったほうがいいで」
と言って去って行った。自然文化園に住むコロボックルに嫌な感じを受けた勇斗は斬神刀を欠かさず木剣袋に
入れて持っていて「先生　朝からキャンプ場にきてまで素振りをするんですか」と生徒に言われたことを笑い思い出して歩いて行った。夕方はキャンプ場で飯盒を炊いてカレーを煮込んで食べた。そしてキャンプファイヤーを芝生広場でした。夜は日本庭園でお化け大会があって、始め一人づつで行った途中から男女ペアで行く
生徒たちは勇斗がお化けに扮していると知らずに暗い道を歩いて行った。勇斗は白い布を羽織って脅かそうと待ちかねていたところに受け持ちクラスの佐藤洋一が他所のクラスの女子と一緒にやってきた。勇斗は脅かそうとして飛び出したら、突然に悲鳴が聞こえて他所のクラスの女子に突き飛ばされて転げた。勇斗は白い布を払って立ち上がって見てみると腰を抜かして転んでいる佐藤洋一の前に見苦しい物の怪がいた。洋一は勇斗に
「先生　助けて」と言ってきたが、咄嗟に黒頭巾に黒い装束に装うことができなかったために「直ぐに助けを
呼んでくるから　待ってなさい」と言って走って行った。そうして黒頭巾に黒い装束を装った勇斗は物の怪の

ところにやってきて、その物の怪が百目であることを知った。勇斗は百目に「何のために人々を脅かしてる」
と聞いた。百目は「ここは　おいらの森だ　邪魔されたくない」と言って黄色い百目のある目玉を飛ばして襲って行った。勇斗は黄色い目玉を斬神刀で斬り裂いて行った。百目は残り残さず黄色い目玉を飛ばし出して
行ったが、それを全て斬り裂かれてめくらとなって森に逃げて行った。百目は変相術を使って黒いサングラスを掛けた人間に化けて森から離れて行った。勇斗は洋一を背負ってキャンプ場まで連れて行って去った。朝に
なって帰りのバスで事件のことを洋一は勇斗に「先生　やっぱ　逃げ足は早いんだな」と言ってきた。勇斗は「おい　馬鹿言うなよ　俺は勇敢に救助を呼びにいったんだぞ　それに笑っているお前ら盆休みに泳いで河童
に足を取られるな」と言って笑いあった。２０１３年秋の頃に始業式が終わった後の２年B組クラスで生徒が朝礼してから勇斗は「おはよう　お前ら　宿題をやってきたか」と聞いた。生徒は「先生　高校生にもなって
やんないですよ」と答えた。勇斗は「馬鹿やろ　お前ら補修だ」と言って怒鳴った。夜になって自宅でレモネードを飲みながら、今日は生徒たちに言い過ぎたと思いテレビをつけてアニメを見てからニュースを見て
いた。すると驚いた勇斗は瓜二つの自分が鶴橋の街を襲っている事件の映像を見て衝動を受けた。直ぐ刀掛け
に置いている斬神刀を手に取って黒頭巾に黒い装束を装った勇斗は１５階もあるマンションの窓から羽衣の術
で鶴橋の街まで飛んで行った。勇斗はビルの火災で黒い煙が上がっている鶴橋駅付近まできて、降り立った。
鶴橋の街の人々は勇斗に「あいつだ　殺人鬼　烏田崇議員の暗殺者だ」と言って批判をして鶴橋駅の架線橋の上から缶を投げつけて行った。勇斗は「違います　それ違うんです」と言って偽者勇斗を探して行った。勇斗
は駅前商店街通りを出た道路には騒ぎが起きていて、消防車とパトカー数台きていた。道路を
股がった勇斗は辺りの警官隊に「そこにいる忍者　止まれ　止まらないと撃つぞ」と言われ発砲された。危うく勇斗は天王寺
に向けて停まっている自動車を飛び越えて行った。超高層ビルあべのハルカスが見えるところまで走ってきた
勇斗は道路の中央線辺りに瓜二つの偽者忍者を見つけた。勇斗は「お前　何のため俺と偽って街を襲ってる」
と聞いた。偽者勇斗は「お前に報復するためだ　精神的な苦痛を味合わせてやろう」と答えて火炎施風の術で炎の竜巻を起こして勇斗に向けて行った。勇斗は自動車など飲み込まれてやってくる炎の竜巻を火炎溶体の術
で全身から火を放出して、爪のある鎖を鉄柱に引っ掛けて鎖にしがみつき炎の竜巻から逃れて行

った。走って
逃げて偽者忍者はあべのハルカスの玄関に入って行ったのを見た勇斗は火炎溶体の術を解いて追って行った。
あべのハルカスの玄関に入って行った勇斗はエレベーターで屋上に向かっているのを察した。勇斗は隣のエレベーターを使って屋上に向かって行った。５８階にきて展望エレベーターに乗り換えて６０階屋上まできた。
勇斗は庭園のほうに向かって行って庭園の中に入ろうとしたときに偽者忍者が勇斗を黒い鞘の偽斬神刀を振り
斬ろうとしたが、それを避けて赤い鞘から斬神刀を取り出して剣の斬り合いをして行った。巡回ヘリがあべのハルカスの屋上周りを廻っていたが、庭園の外に出て行った勇斗と偽者忍者は忍術で戦い始めた。巡回ヘリが
テレビ中継している英雄の忍者の二人を見た人々は黒い鞘を持っているほうを黒影と呼んだ。火炎烈火の術で凄い勢いで火炎で攻撃してきた偽者勇斗に対して勇斗はそれを避けて火炎噴火山の術で偽者勇斗のいるところを囲んだコンクリート一部から火炎弾を放って偽者勇斗を倒した。偽者勇斗は偽装目の瞼を開いて起き上がり
黒頭巾に黒い装束を払って正体を暴いた。その男は掛けている黒いサングラスを外して、のっぺら坊の素顔を見せた勇斗に「覚えてないのか　お前にこの目を遣られた百目だ」と言った。変相術を解いて目のない百目は
勇斗に硫酸の泡を口から吹いて攻撃して行ったが、勇斗はそれを避けて壁に添って上がって行って飛んで百目
に向かって般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀で斬り裂いたが、真っ二つ裂けなかった百目は体が膨張して行って破裂して屋上を爆発させる瞬間に勇斗は羽衣の術で飛んで脱出して、爆発して巡回中のヘリは巻き沿いになり
炎上して落ちて行って爆破した。このニュースを見ていた世間の人々の反響が悪くなって誇りを傷つけられた勇斗は気が癒えないままであった。英雄の忍者が二人もいたことを知った人々には黒影の正体が物の怪であると見たために勇斗は物の怪だと思われていた。一方でマドゥー教の教祖の亮は信仰者に「その昔　鬼夜叉の娘である鬼子の我が子が両親に似てなく歯が生えて異様な形で産まれてきたことで、鬼子は我が子を喰い殺した
鬼子の我が子に呪われた人間の子まで喰い殺して行った　それを見ていた釈迦は鬼子の行動を止めようと子供たちを隠して行ったために嘆いた鬼子は外護神である鬼子母神となることを誓って安産の神様となって人々に
尊崇された」と教えた。「だが鬼子に呪われた人間の子を見つけ出して、生贄にするのだ」と聞いて洗脳された信仰者は鬼子狩りをすることにした。亮に手繰らされて賄賂を取った大学生の倉木健三は鬼子狩りのリーダーとなって鬼子に呪われた人間の子供たちを攫って邪教マドゥーの生贄に捧げた。２０１３年１１月２０日
冬の頃に天王寺高校の修学旅行で一の瀬スキー場にきていた勇斗は以前からパニック障害を薬物療法で克服を

して新幹線も安心して乗れるようになっていたが、志賀高原までは高速バスできた。ただ人々から迫害を受けた心の傷が癒えないままであった勇斗は気を取り戻して一の瀬スキー場宿舎で生徒たちと信州そばを食べた。
そして自由行動でスキーを楽しむことになった生徒たちに「くれぐれも上級の頂上には行かないように」と言って注意を払った。長野では２番目の高い志賀高原で初級では物足りずにゲレンデのリフトに乗って中級の
横手山スキー場まで行ってスキーを楽しんでいた勇斗は黄昏れてきてスキーウェアを脱いで休憩所でおぎのやの釜めしを食べていた。そこに他所のクラスの女子３人がやってきて勇斗に「先生　加藤浩一と戸田優梨菜と
高田徹平がリフトに乗って上級に行ったよ」と言ってきた。勇斗は信州そばを食べ残して「それ内の生徒じゃないか　何考えてんだ　彼奴ら　ありがとう」と言って休憩所を飛び出して探しに向かって行った。リフトに乗って上級の渋峠スキー場にきた勇斗は頂上の付近では険しくて吹雪で辺りを見渡しても見当たらなかった。生徒を追ってゲレンデをスキーをして降りて行った。ゲレンデの途中で転倒している高田徹平を見つけた勇斗
は起こして目を覚ました徹平に「大丈夫か　加藤と戸田は何処に行った」と聞いた。徹平は「浩一と優梨菜は毛むくじゃらの雪男に連れ去られて行ったよ」と答えた。勇斗は徹平に「大変だ集合場所に戻って救助願いを頼む」と言って板とスティックが散らかっているところから雪男の巨人の足跡を辿って浩一と優梨菜を探しに行った。勇斗は夜になると視界が狭くなり峠道が険しくなって、後に戻れなくなった。優梨菜と浩一を腕に
掴んで歩いている雪男は白い和服をきた雪娘と出会った。雪娘は雪男に「放しなさい　人間だよ」と言った。雪男は「冗談じゃない　わいのごちそうだ」と言って優梨菜と浩一を腕から放して雪娘に威嚇攻撃で向かって行った。雪娘は口から白い氷の粒の吐息を舞いて雪男は立ったまま凍結した。満月の光でしか頼るものがなかった勇斗は何とか狭い峠道を歩いてきたけど、足を滑らして崖から谷底に落ちてしまった。谷底に落ちてる
勇斗は暫くの間は横たわっていたが、板とスティックとゴーグルは何処かに飛んでいた。立ち上がって狼狽える勇斗は斬神刀の護り刀も持ってきてなく、気力が減って忍術も使えなくなって、何時に妖が現れても戦えないし火遁の術で炎を起こして焚き火もできなかった。鶴橋の街を襲ったのは自分の所為と思われた勇斗はもう戦わない決めて斬神刀を刀掛けに置いてきて無防備であった。谷底で狼狽える勇斗は寒さと孤独を超えて孤立して幻聴が聞こえ始めて倒れ込んだ。そこに雪娘が現れて勇斗を抱き起こしてキスをした。本当なら凍死した
女の霊である雪の精の雪女とキスすると精気を奪われて殺されると言うけど、雪娘とキスすると反対に精気が
活発になって甦ると言う。そして孤独の淵から甦った勇斗冷血状態で冷たい肌の雪娘に「ありがとう　君なぜ
こんなところにいる」と聞いた。雪娘は「私を愛情だかで暖めて」と言ってきて勇斗に抱きついてきた。白い天使である守護者の雪娘は勇斗から去って行った。密かに恋心が生まれていた勇斗奇想天外な奇跡で勇気を貰った。雪娘のお陰で浩一と優梨菜を探しに行くことができた。谷底か

ら峠道にまで登って、歩いたきた辺り
に満月の光で見えた浩一と優梨菜のうつ伏せているのを見つけた。その辺で凍結した雪男を見た勇斗は忍術が使えるか試しに火炎火遁の術を両手から放って凍結した雪男を炙って解かして火達磨にした。勇斗は近くにあった樹脂の多い松の木の枝を折って、被っているニット帽を脱いで枝先に巻き付けて火遁の術で手のひらに炎を起こして、枝先に巻き付けたニット帽に炎を灯してたいまつにした。起こして立ち上がった浩一と優梨菜
はたいまつを持っている勇斗に「先生　ごめんなさい　忠告を守れなかった」と言ってきた。勇斗は「お前ら
が無事でいてくれたら　それでいいんだよ」と言って浩一と優梨菜は一緒にゲレンデのある方向に戻っていた
ら、救護隊と出会って「大丈夫ですか」と問いかけられて宿舎に戻って行った。翌日になって雪男に嫌な思いをした生徒たちは良い思い出を残すために勇斗と共にスノボーに挑戦したりしては戯けて楽しんで過ごした。
帰りの高速バスの中で浩一は「雪男は本当にいたんだ　でも白い和服を着た女の子に助けられた」と言った。
生徒たちは「怖い　雪女じゃないの　よく精気を抜かれて殺されなかったな」と聞いた勇斗は雪娘のことだと
思い出して躍動して勇気が湧いてきて、そして生徒たちと一緒に天高まで帰って行った。一方で亮が誘発して付け上がって行った健三は邪教マドゥーに「マドゥー様のお望み通り子供の魂を捧げにきました」と言った。
邪教マドゥーの左から雨河童に鬼夜叉に烏天狗に三面が回転して鬼夜叉の顔は「私が女を嫌う所以は強欲傲慢の女夜叉に致し方なく無理矢理に押し倒されてできた鬼子が人間を呪ってできた子供は産まれているからよ」
「本当に女は怖いわ」「それ故に鬼子に呪われて産まれた子供の魂は私の命の一部だから輪廻に役立つのよ」と言った。しかし野望に満ちた邪教マドゥーに反りが合わなくなった健三は「僕は別にマドゥー様の生き返りなど祈ってない」と断った。子供を攫われた若い母親たちは無念の思いからゆりかごの会を設けて物の怪たちの仕業と見て根絶することにした。２０１３年１２月２４日クリスマスイブの日に天高は冬休みに入って自宅
のマンションで相変わらず誰の欲情にも流されないストイックな生活をしていた勇斗は甘い香りに仄めかされてキスしてきた綺麗な水色の髪に白い肌の雪娘に思わせ振りと思っていても、恋しく惹かれてしまっていた。
そして棚に置いてあった金の印鑑が突然と光出して、黄金の獅子が現れてきて勇斗に「我がお前の命を救って
これたのはお前に闘志があったからだ　これからは祈り込めたときでしか助けられない　それに五度限りだ」
と言って黄金の獅子は去って行った。それから床の落ちていた蒼玉を手に取った勇斗は翌日の朝になってから

難波の街にある花屋でバイトしてる愛に久しぶりに会って「愛　父上から聞いたんだけど、母上に父上が忍びであることを知られてしまって鶴姫であった母上は姫路城に戻って中奥の小さな雛形天守にいたことから苗字が雛形になったんだな」と聞いた。愛は「そうだよ　今頃になって知ったの　だけど未来にきてから雛形愛美
と改めたんだよ」と答えた。勇斗は「この後で父上のいる日本橋の歌舞伎座に行って見ようと思うんだけど、
一緒にどう」と聞いた。愛美は「いやいやご免　お客さんきた　バイトが終わったら、日本舞踊の稽古があるんで　また今度にするよ」と答えた。勇斗は「そうか　これ戻す　後四度は使えるみたいだけど、使えきったら、鶏になるようだぜ」と言って赤い珠玉を投げて愛美に渡して離れて行った。そして歌舞伎座に訪れた勇斗
は女優の小松寧々に「相生泰三はいますか」と尋ねた。「はい　私の父も歌舞伎役者をやっていて一緒にいると思います」と答えた。勇斗は「今日はどうしてここに」と聞いた。寧々は「歌舞伎の見学です」と答えた。
それから泰三と寧々の父の小松一之助が舞台から降りて勇斗と寧々のところにやってきた泰三は勇斗に一之助と寧々を紹介してきた。そして泰三は勇斗を奥のほうに連れて行き「どうやらがしゃがしゃ髑髏が放った黒い一魂のカルマは全部で五体だったの思い出した」「それと物の怪は人々の多い東京と大阪の都心を狙って現れてるようだ」と言ってみた。勇斗は「じゃあ　三体は倒したんで　後二体は現れるな」と返して言った。泰三
は「後一息だ　乗り切ろう」と言った後で「今日の夜は小松さん宅でお呼ばれだ　くるか」聞いてみた。勇斗
は「喜んで行くよ」と答えた。夜がきて小松家に訪れた泰三と勇斗は海鮮料理を食べて酒を飲んで酔いつぶれていた和室の間がいきなり証明の明かりが切れて暗くなった。厨房にいた筈の一之助と寧々は化け猫となって
暗闇の中で猫目が光って蠢いているのが微か見えた勇斗と泰三は戊夜けてきた頃に目覚めた。横になっていた勇斗と泰三は起き上がろうとしたが、両手両足を縄で縛られて身動きができずにいた矢先に光った猫目の二体の出刃包丁を持った化け猫が勇斗と泰三のところにやってきて「これからお前たちをバラバラにして大釜の中で煮込んで食べるのだ」と言ってきた。すると突然に日本庭園の見えるテラス窓が凍結して割れて吹き飛んで
行った。そして外から雪娘が現れてきてのが、満月の光ではっきりと見えた勇斗は「助けにきてくれたんだ」
と問いかけて、忘れかけていた恋心が復活して投極打の三要素を持った功で縄を解き放って、泰三の縄も解き勇斗と泰三は黒頭巾に黒い装束を装って忍術で戦うことにした。証明の明かりをつけた一之助と寧々は「どうか致しましたか」と尋ねてきた。雪娘は勇斗と泰三に「この二人は山猫の化身で化け猫だよ」と言ってきた。
「そうか　バレたら仕方ねえ　三人纏めて料理してやろう」と言って化け猫の正体を現した。出刃包丁を振り回して攻撃してきた大柄の化け猫を勇斗は火炎風車舞の術で火炎風車を舞って攻撃して泰三は地雷土遁の術で

化け猫のいる周辺で地雷を爆破させて攻撃して化け猫は火達磨になって倒れた。鋭い爪を伸ばしては攻撃してきた小柄の化け猫娘を雪娘は白い氷の粒の舞いて化け猫娘は凍結して倒れた。だが五度生き返ることができる
山の精の化け猫は山猫となって山のほうへ逃げて行った。それから雪娘も何処かに去っていた。そして幻覚を見ていたかのように小松家が心斎橋の和食亭であったことに気がついた勇斗と泰三はその場から離れて普段着
に装って心斎橋筋通りを歩いていた。勇斗は泰三に「寧々さんが化け猫娘だったなんて残念だよ」と言った。
泰三は「私も一之助さんが化け猫だったとは残念だった」と言って「でも大鋸屑と小汚い小悪魔を退治できた
のはいいとして　それより雪娘は知り合いなのか」と聞いてみた。勇斗は「前に志賀高原で遭難したとき助けてくれた」と答えた。泰三は「惚れたのか」と聞いた。勇斗は「恋してると言うか惚れてる」と答えた。泰三は「お前　気は確かか　相手は妖だぞ　いつかは遣られるぞ」と言った。勇斗は「雪娘はそんな子じゃない
俺が何とかして人間にしてやるよ　絶対に」と言った。飽きれた泰三は「また雪娘に会えるなら良いがな」と言ってグリコ看板の見える戎橋を渡ったところの道頓堀で勇斗と離れて行った。勇斗は戎橋筋通りを歩きながら、また雪娘に何処かで会える気がしていた。一方で邪教マドゥーは野望を断って身逆らった健三を念力で首
を絞めて「健三　最後の頼みを聞いてくれたら　幼い頃に事故で亡くなった妹の保奈美ちゃんを生き返らせてあげるわよ」と聞いた。健三は「分かった　何でもきく　止めてくて」と答えた。そして邪教マドゥーは念力
を止めて首絞めを離して「それなら　聞いて貰うわよ　大阪にいる雛形愛美と言うを探し出してここに連れてきてちょうだい」と言った。健三は「分かりました」と言って大阪に向かって行った。翌日の朝になって健三
は難波の街にきて花屋を尋ねて行ったが、何処の店員も「雛形愛美と言う子は内にはいません」だったけど、
なんばウォークにある花屋の店員は「この子だったら　今は　京都にいってるよ」と聞いて京都の祇園にある
水茶屋まで行った。舞妓と一緒に舞を見せるお転婆の愛美は舞台から降りてきて客に紛れたときに健三が現れて「あなたが子供の頃に病で倒れた母上を生き返らせることのできるのは修羅道のリーダーであるマドゥー教を崇めれば　きっと願いを叶えてくれます」と聞かれた。胡散臭いけど、気にかかった愛美は「本当ですか」と言った。健三は「興味があれば東京にある増上寺まできてください」と言って去って行った。考えた愛美は
大晦日の前日になって年内に気になっていたことを収めるため朝から新幹線に乗って東京へ向かって行った。
増上寺に訪れた愛美は健三と会って三冠王の顔の三面六臂のマドゥーでない阿修羅像のところに連れてきた。

愛美は本当に母上が六道輪廻で甦るか阿修羅像を仰いで崇めて拝んで祈った。そして阿修羅像の奥のほうから母上の鶴江が現れてきた。感涙した愛美は「母上　会いたかった」と言った。鶴江は「愛　寂しい思いさせて
ご免ね」と言った。愛美は鶴江と一緒に増上寺を離れて東京ドームシティでショッピングをして食事をした。
それから愛美と鶴江は夜になって東京ドームホテルで一晩は泊まった。一方で深夜になってアメリカンドックを買ってコンビニからマンションの入口の前まで帰ってきて、入口付近で妖艶の雪娘が立っていたことに気がついた。勇斗は雪娘に「どうしたの」と聞いた。雪娘は「忍びだったのね」「私の願いは人間になること」と答えた。恋した勇斗は「人間になろう」と言って部屋まで連れて行ってディープキスをしてベットに横になり抱き合った。雪娘が眠りに着いて眠った勇斗は朝になって目が覚めて幾度か恋だか愛だかで暖めた雪娘は恋に芽生えて冷たかった肌が暖かい肌になって黒髪で艶やかな人間となっていたことを知った。目が覚めた雪娘は勇斗に「ありがとう」「私はこれから川村沙織として生きて行くよ」と言った。勇斗は「分かったヨロシク」と言ってテレビをつけてニュースを見ていたら、烏田崇議員失踪事件について国会議事堂で廊下の防犯カメラ
が捕えた映像では誤解されていた忍者と出会って、烏田崇議員は烏天狗の物の怪であったのが分かりましたと聞いた。誤解が解けた勇斗は「罵った人々を言わして　世間の譬にもならないわけじゃない」とつぶやいた。
一方で東京の深川地区の街角にひょっこりと現れた塗壁は四角い巨体を平行に伸ばして１０メートル近くある平行四角形の壁で囲んで人々の通行を塞いだ。壁の囲いで出口がなくなった人々は壁を乗り越えようと人の肩に乗って行ったが、壁の顔が近づいてきて火炎大を放ってきて火達磨になった。門前橋にある和束川の排水口
に入って汚水の下水道を通って行った雷神獣は下水管の梯子を勢いよく登ってマンホール周辺の路面ごと破壊して行って、壁で囲まれた深川地区の街に現れて格好の餌食となった人々を襲って行った。昼になってこのニュースを見ていた勇斗は沙織に「人々を助けてに行って　私はここで待ってるから」と言われて漲り力を貰って仕向けられた。忍者の魂が甦り燃えた闘志の勇斗は沙織に「必ず帰ってくるから待っていてくれ」と言って刀掛けから斬神刀を持って部屋から出て行った。新幹線に乗って東京にやってきた勇斗は東京メトロの東西線の大手町駅から地下鉄に乗って門前仲町駅に降りて壁で囲まれた深川地区の街角まできて黒頭巾に黒い
装束を装った。何処まで行っても壁だらけの塗壁を般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀で斬り裂いたが、びくともしなかった。勇斗は壁を乗り越えて壁で囲まれた深川地区の街に入って壁に沿って行くと雷神獣が人々を噛み砕き喰い殺して、血だらけの残骸が残っているところから歩いて進んだ。人魚と河童を合わしたような二本足で三本爪の雷神獣に出くわした勇斗は「おい　いかれた　醜いグロテスク」と言って雷神獣を呼んだ。そして
勇斗は向かって突進してくる雷神獣に網を張って取り捕まえて手繰って行ったが、暴れる雷神獣は鋭い三本爪で網を突き破って攻撃してきた。それから三本爪の爪痕で背中を裂かれた勇斗は流血しながらも忍術で戦って正気を忘れていた。勇斗の火炎風車舞の術と火炎噴火山の術を交わし

て行った雷神獣は壊したマンホールの穴に入って行った。勇斗はそれを追って行こうとしたら、壁の顔が火炎大を放ってきて、それを避けて壁の顔の口の中を目がけ般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀を投げて突き刺して塗壁は元の姿に戻って倒れた。落ちていた
斬神刀を拾ってマンホールの穴に入って行った勇斗は暗い汚水の下水道を手のひらで炎を放って通って行った勇斗は排水口を出て和東川を潜って泳いで行った。隅田川まで泳いできた勇斗は巨体な鋭い牙の雷神獣を発見して勢いをつけて潜って行って雷神獣の尻尾を掴んだ。勇斗は凄い勢いで泳いで行く雷神獣の尻尾を掴んだ腕を離して水面に上がって待ち構えた。雷神獣は勇斗に向かって水上に飛び出してきた瞬間に般若派羅蜜多と刻まれた斬神刀で開いた口から巨頭の脳天を突き刺されて血を吹いて倒れた。これで黒い一魂のカルマは全て倒したと一安心をしていた勇斗に永代橋の天辺から黒頭巾に黒い装束を装った泰三が「勇　愛が危ない助けに行こう」と叫んで口寄せで口笛を吹いて大鷲を呼んで大鷲の背なに乗って勇斗のところまで翔んできて水面に立っている勇斗を掴んで行った。勇斗は泰三に「愛は何で　東京にきてるんだ」と聞いた。泰三は「三冠王が奈落の底から乗り移った阿修羅像は邪教マドゥーとなって人々を勧誘していた」「それに三冠王の鬼夜叉は愛に女々しいと侮辱して馬鹿にされて愛姫じゃなくくノ一忍者だったと騙したからだ」と答えた。勇斗は「それだけでか　最低だな」「それより大鷲なら口寄せできたんだ」と聞いた。泰三は「ああ　鷲が如く翔んできて愛の居場所を教えてくれた」と答えた。一方で愛美と鶴江は東京ドームシティアトラクションズで遊び終えて増上寺に戻ってきた。泰三と勇斗を背なに乗せた大鷲も増上寺にやってきて降り立って大鷲と離れて行った。境内にいた愛美に勇斗は「愛　そこにいるのは母上じゃない　離れろ」と言った。愛美は「そんな　嘘でしょ　あり得ない」と言った。鶴江は「そうだ　私は鞍馬亮　今からマドゥー様の生贄に捧げようと思ってたに」
と言って放って正体を証した。黒頭巾に黒い装束を装った愛美は「やっぱりね　そうとは思っていた　それに
何処かで見たことあるような青い狐目」と言った。亮は体外離脱の術を解いて檻の中に眠っている九尾狐に魂が戻って覚醒して檻を突き破って行って泰三と勇斗と愛美のところにやってきて爪で攻撃して行った。三人で囲んで忍術で攻撃して行った泰三と勇斗と愛美は九尾狐が毛針を放って攻撃してきたのを避けて行った。即と九尾狐は狐もどきの人獣に変化して泰三と勇斗と愛美に向けて両手の指先からマグマを放って行った。即座に瞬間移動の術で別の場所に移動して行った泰三と勇斗と愛美であった。泰三は巨木突発の術で突然と地面から巨木が突発して狐もどきの人獣は吹き飛ばされて勇斗が巨木を駆け上がって行って飛び上がり般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀で背なを斬り裂かれて落ちて倒れた。泰三と勇斗と愛美は増上寺の中に入って行き大仏の隣にある銅でできた阿修羅像を見つけた。勇斗は阿修羅像に向かって「善くも　地獄から這い上がってこれたな」と言った。阿修羅像に三冠王の顔が現れて真ん中の鬼夜叉の顔は目から閃光を撃ってきたのを避けて離れた。
邪教マドゥーは「もうすぐ人間道で生き返れるのよ　邪魔はしないでよ」と言った。勇斗は「冗談じゃない
お前らを未来までやってきて　奈落の底へ落としてやったのに　また振り出しか」と言った。邪

教マドゥーは
「小癪な小僧め　やってやりましょう」と言って三面が左から鬼夜叉に烏天狗に雨河童に回転して軋む足音を立てて歩き出して銅でできた胴体が二つ断片して擬人化した三面六臂のマドゥーと変わって行った。勇斗は「地獄から生き返っても　また地獄へ行って彷徨うだけだ」と言って赤い鞘から斬神刀を取り出して構えた。泰三は長刀を構えた。愛美は卍剣を構えた。擬人化したマドゥーの烏天狗の顔は勇斗に「お前には　焼却炉に落とされた恨みがある　今度は容赦しないぞ」と言って六本の腕で持っている霊剣にプラズマを放って振り回して攻撃して行った。擬人化したマドゥーは勇斗と泰三と愛美と剣と剣とで火花を散らし合ってを続けていた
が、電光石火の勇斗は力尽き果てて擬人化したマドゥーにプラズマの放った霊剣で斬神刀を払われた。危うし勇斗を救った泰三は擬人化したマドゥーの腹部を長刀で突き刺した。愛美は擬人化したマドゥーの脇腹を両手に持った卍剣で突き刺したが、泰三と愛美は擬人化したマドゥーに払い飛ばされて倒れた。素早く斬神刀を拾った勇斗に擬人化したマドゥーが襲いかかってきたときに遠い昔に亡くなった筈の不老不死である天仙人の貞明は擬人化したマドゥーに向けて風塵金遁の術で鉄屑の舞う塵を飛ばして擬人化したマドゥーの攻撃を妨げて勇斗を連れて増上寺の外に出て石の階段を降りて行った。擬人化したマドゥーは増上寺から出て石の階段を降りてきた石の通路のところで勇斗は火炎噴火山の術で擬人化したマドゥーを囲む石の通路の地面から火炎の噴火を放って倒れかけて、立ち上がってきた泰三は地雷土遁の術で擬人化したマドゥーを囲む石の通路の地面から地雷を放って倒れかけて、立ち上がってきた愛美は花ノ舞木遁の術で擬人化したマドゥーに向けて毒棘の花枝を舞って突き刺さって行った擬人化したマドゥーは痺れて立ち止まった。その隙を勇斗は般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀で擬人化したマドゥーの腹を突き刺した。それを見ていた大仏はマドゥーに「守護神でありながら報いを受けるがいい」と囁かれた。そしたら擬人化したマドゥーの周辺の石の通路の一部ごとマドゥーは火と硫黄の池に落ちて行って、永遠に昼と夜とも苦しみ冷酷な仕打ちを受けた。邪教マドゥーの野望を下して倍返した勇斗は奈落に落ちたマドゥーに向けて「奈落の底がお似合いだ」と言って社会の秩序をかく乱していたマドゥー教を滅ぼした。鬼子に呪われた子供たちは鬼子母神によって呪いを解き離されて甦りゆりかごの会の若い母親の元へ帰って行った。愛美は「これで全ておじゃんになったね」と言った。泰三は「これで凶暴な物の怪はいなくなり穏やかな物の怪だけが残った」と言った。勇斗は貞明に「あのとき　大蛇女に遣られたんじゃなかったのか」と聞いた。貞明は「わしはそのとき持っていた血清を打ったお陰で大蛇女の毒が解けた」「あれから金剛山に隠ったきりだったが、最近になって物の怪の臭いが漂ってきて目覚めた」「そして風天神にここまで連れてこられたのだ」と答えた。貞明と泰三と勇斗と愛美は無事に大晦日を過ぎて正月を迎えた。増上寺を逃げて行った健三は児童誘拐未遂で逮捕されたが、証拠が見つからず釈放されて大学を辞めて仕事を転々として色褪せた埼玉の熊谷の町で廃人となった。

宇宙人と未知の遭遇

２０１４年２月２日節分の日に戦く渾身の力を振り絞って曼荼羅でマドゥーを制した勇斗は沙織と二人だけでマンションの屋上で夜空を見ていたら、謎の未確認飛行物体がマンションの屋上に降り立って、中から巨人のパピュラス星人がビームサーベルみたいなレーザー光線銃を持って現れて遭遇した。パピュラス星人は勇斗に
「時空転送の門を潜って未来にやってきたのは君たちだけだ」「今度は過去に行ってみろ」「今までは我々の化学の神秘を地球に見せるための実験台になって貰った」「この情報は世界中に広まることだろう」と言って時空転送の門と三次元装置を再びマンションの屋上に設置して未確認飛行物体に乗り何処かへ飛んで行った。
マンションの屋上に管理人がやってきて勇斗に「今のは何ですか」と尋ねて時空転送の門を見て驚いた。勇斗は「未確認飛行物体です　管理人さん暫くこのことは誰にも教えないでください　それとドアのノブを閉めて置いてください」と言ってテントを貰って時空転送の門と三次元装置を張って隠した。勇斗はこのことを泰三
に知らせて、状況変換の術を使えず生きる手段もなく一年近く道具屋筋通りで何時も俯いて乞食暮らしをしている元孝明天皇にも伝わった。２０１４年２月２２日太陽の光が強い昼頃に泰三と元孝明天皇は過去に戻ることになった。勇斗は泰三に斬神刀を手放すことを悲しんで手渡した。斬神刀を手に取った泰三は「確かに受け取った」「沙織さんとは美味くやってけよ」と言った。勇斗は「大丈夫　美味くやってくよ」と言った。沙織は「心配ありません　美味くやりますよ」と言った。愛美は「いいな　勇　焼きもちしちゃうな」と言った。
泰三は「戦いが終わった後で東京理科大学研究所を尋ねた外郎薬の銀玉を見せて同じ物質を作ることは可能かどうか聞いてみた」「そしたら可能と言っていたよ」と言った。勇斗は「今のところは外郎薬は二つしかないから、愛美とここに残るよ　沙織もだけど」と言った。奇麗に髭を剃って体を洗い流した元孝明天皇は「さあ
行きましょう」と言って泰三と一緒に時空転送の門を潜って行った。１６８６年２月２２日明治初期に辿り着いた元孝明天皇と泰三は離れて行った。泰三は皇室に訪れて明治天皇に忝い思いで斬神刀を収めた。一方では
勇斗と沙織と愛美は懐かしくなった伊賀の里のあった三重の伊賀に訪れて相生泰三の石碑を見て突然に悲しくなって感涙して柘榴の咲く頃に過去に戻る決意をした。勇斗は首里城から紛失していたと言われる金の印鑑を大阪歴史博物館に売り大金にして飾られている斬神刀を発見して大金で買い取った。

奥付

Sin Ninja Spirit Gaiden

執筆・撮影　八島　聖彦

作成日　２６年２月２２日

登場人物

相生勇斗（あいおいゆうと）
火遁の術　斬神刀

相生泰三（あいおいたいぞう）
勇斗の父上　土遁の術　長刀

雛形愛美（ひながたまなみ）
勇斗の妹　木遁の術　卍剣

邪教マドゥー
最大の敵　奈落に落ちた三冠王

九尾狐（きゅうびきつね）
邪教マドゥーの僕

貞明（ていめい）
勇斗の師匠　天仙人　金遁の術